

2025年3月期第2四半期決算
投資家向け説明会質疑応答録

日時:2024年11月12日(火)

登壇者:取締役 専務執行役員、CFO 兼 CISO、財務統括 兼 管理統括 後藤 芳光
常務執行役員、経理統括 君和田 和子

CFO, SB Investment Advisers & SB Global Advisers, Navneet Govil
Arm, Vice President, Investor Relations, Ian Thornton

質疑応答

質問者1

Q1:

Open AI への投資額について教えてください。SVF の中で、バイトダンスなどと比べると現時点での投資額は比較的まだ小規模にとどまっていると思います。この投資額から始めた理由を教えてください。LTV などの財務規律を考えてのことなのでしょうか。または今後も継続的に投資額を増やしていくからでしょうか。

A1:

(後藤) 今回 OpenAI が行った投資ラウンドの中での金額配分です。我々はこの件に非常に強い関心を持っていましたが、多くの投資家から大変多くの需要があり、私たちの配分はこの金額にとどまったということです。

Q2:

ではまだ財務余力は十分だということですね？

A2:

(後藤) はい、そう考えています。

Q3:

今回の自社株買いの実施タイミングから株価は上昇しましたが、NAV ディスカウントはそこまで変わっていないように見えます。実施からまだ3カ月しか経っていませんが、今回の自社株買いの評価を教えてください。株価が上がったので良かったと捉えるべきでしょうか。また御社としてマーケットに対し、NAV ディスカウントが大きいことに関して何かメッセージがあるでしょうか。

A3:

(後藤) 今回の自社株買いの目的は、投資家の皆様が当社株もしくはクレジットを見る上で非常に不安を覚えるような大きな変動がマーケットであった時に、我々がタイムリーに自社株買いというツールを活用し得るかどうかというメッセージを出したつもりです。まず投資家の皆様には、私たちの財務活動の柔軟性や、環境に応じてプライオリティを変えて意思決定できる仕組みを持っているということをご理解いただければ幸いです。NAV ディスカウントについてはもともと自社株買いで改善すると考えているわけではありませんので、その影響で本件の意義が変わることはありません。

質問者 2

Q1:

財務編 10 ページの解釈に悩んでおまして、円安だから必ずしも大型投資を行わないという意味ではないですよね？先ほどプレゼンテーションの中で為替変動に対する過度な依存は長期戦略を考える上では不安定だとおっしゃっていましたので、今後の投資戦略に対して為替は影響するものかどうか、コメントいただけますでしょうか。

A1:

(後藤) おっしゃる通り、このスライドはこれまでの大型投資のタイミングと為替の推移を結果論的に示したものに過ぎません。例えば今 150 円、160 円だからといって投資の意思決定に影響を与えるということは全く想定していません。

質問者 3

Q1:

アーム編9ページについて、通期売上ガイダンスの中間値、Q3売上ガイダンスの中間値をとると、Q4の売上は前年同期で 30%以上増えるというガイダンスになっています。従来からパイプラインでいくと、Q4のライセンスが非常に強いということをおっしゃっていますが、これはどういったものが入っているのでしょうか。また ATA(Arm Total Access)と CSS (コンピュータサブシステム) でライセンス収入がかなり増えるとおっしゃっているので中期的にもライセンス収入は増え続けるのでしょうか。

A1:

(Thornton) その通りです。Q4のライセンス収益は非常に好調で、過去最高水準に達すると予想しています。これは主に ATA(Arm Total Access)のサブスクリプションライセンスによるものです。Q4に更新を迎える大規模なライセンスが 2 件あり、そのうちの1件はすでに Q2に契約が締結されました。このため、Q2は Arm にとって過去2番目に高い水準の契約実績となりました。この契約は Q2に締結されましたが、契約が有効となるのは Q4のため、当該

契約に係る収益は Q4に計上されます。また、Q4に成立する見込みの別の ATA 契約もあり、この契約は非常に高い確率で成立すると見込んでいます。その理由は、これまでの契約が失効すると、半導体企業はエンジニア全員を解雇するか、契約を締結するかを選択を迫られるためです。したがって、われわれは第4四半期の業績に対して非常に強い確信を持っています。

Q2:

来年以降も ATA や CSS があるとライセンス収入は増え続けるのでしょうか。

A2:

(Thornton) 来年度のガイダンスについては、通期の業績を発表する Q4にお知らせする予定です。今年の初めに、2026 年度および 2027 年度の総売上高が少なくとも 20%成長すると予想しているとお伝えしましたが、その詳細については今後数四半期でご説明します。

Q3:

財務編 13 ページについて、SBG による投資金額が Q2で\$1.4B となっています。この内訳として、英国の Graphcore の買収が入っていると思いますが、それがこんなに大きいのでしょうか。あるいはそれ以外にも何かあったのでしょうか。

A3:

(後藤) この\$1.4B の主な内訳としては Graphcore がもちろん入っています。あとは SB エナジーグローバルへの投資を増やしていて、SB Tempus への投資も少し入っています。大体その辺りが大きなものではないかと思います。

Q4:

SB エナジーについて、御社は売却して少ししか株式を持っていないと思っていたのですが。

A4:

(後藤) ややこしくてすみません。日本の SB エナジー とは別に SBE Global がありまして、日本の SB エナジーの方は豊田通商さんに売却しましたが、グローバルの方は共同投資家の持ち分を私どもが買い取っています。

Q5:

そうなのですね、知らなかったです。エリアはどの辺りでしょうか。

A5:

(後藤) アメリカです。

質問者 4

Q1:

SVF2の未公開投資先のバリュエーションは\$1B 引き上げられましたが、SVF1は大規模なポートフォリオにもかかわらず何も変化がありませんでした。パフォーマンスが好調なSVF1の一部の未公開投資先について、再評価の余地が出てくるタイミングについてご説明いただけますか？

A1:

(Govil) ご存じのとおり、過去の四半期にはSVF1のいくつかの企業、特にこの12カ月間で貢献が見られた ByteDance に関してバリュエーションを引き上げてきました。なお、ByteDance は引き続き好調で、Fanatics も同様です。ByteDance のバリュエーションにおいては、われわれは米国事業を評価対象としておらず、主に中国事業に基づいて評価しています。Q2で行った全体的なバリュエーション上昇を見ても、主に公開投資先がけん引したことがわかるかと思います。未公開投資先では、いくつかのプラスとマイナスがあり、結果的に相殺されました。

もう一つの例として Fanatics があります。Fanatics は収集品、ゲーム、コマースを含むすべてのセグメントで引き続き好調です。コマースにおいては大きな進展があったほか、ゲーム分野では市場シェア5%に成長し、Caesars や ESPN を上回りました。収集品セグメントでは、Topps Bowman Baseball などの目玉商品の発売により、記録的なパフォーマンスが見られました。2024年度の業績は、収益とEBITDAの両面で非常に好調であると予想されています。今後もSVF1の未公開投資先のパフォーマンスを引き続き注視し、バリュエーションを実施していきます。

Q2:

2つ目の質問はイアンさんにお伺いします。新しい大統領の就任がテクノロジー業界や Arm に及ぼしうるリスクについて、どのような点を懸念すべきでしょうか？

A2:

(Thornton) 規制環境についてですが、特に世界的な貿易摩擦に関しては、確かにメディア報道や次期大統領のさまざまな演説の中で取り上げられています。これが最終的にどうなるかについて推測するのは控えますが、半導体業界はサプライチェーンの面で完全にグローバル化されており、これらのサプライチェーンが混乱したり追加コストがかかったりするようなことがあれば、業界に悪影響を及ぼす可能性があります。米国が中国の半導体業界に対して規制を強化していることは見てとれますし、両政党ともにその分野でさらに踏み込んだ対応をしようとしているように見えます。しかし現時点では、Arm のビジネスへの影響はほとんどありません。われわれは中国国内の企業とも、世界中の企業とも引き続き取引ができています。ただ

し、今後どのような規制が施行されるかによって状況が変わる可能性は当然ありますので、そういった規制が施行される際には、確実に順守するよう努めていきます。

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下 SBG と併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら以外の他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものではありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券と同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社(以下併せて「SB ファンド運用会社」)により運用されるいづれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて「SB ファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」)、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」)及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SB ファンド(ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいづれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のバ

パフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。